

達人退魔師なら

触手妖魔

なんじ

敵

ごまの





れいざんせん
霊斬閃！

ヒィッ！！

×

ちよつと
ちよつとー！！

四大退魔師「桐生家」
十八代目当主
きりゆう いちか
「桐生 一華」





あゝ

いいや…そういう
つもりでは…

妖気を辿ってきたら
お前が戦っているのが
見えたので…

助太刀
しよう…



一華ア…
まゝしたアンタは…!!

私の獲物を
横取りして!

くらし
四大退魔師「闇無家」
十九代目当主
くらし まり
「闇無 真利」



余計な
お世話よ!

ああもう…!!
私のものになる
はずだった魂魄を
横取りして…



ちよつと聞きたい
ことがあるんだ
けどさ、一華

む?
な、なんだ…?



あ…そうだ



見覚え
ない…？

ん…？

この紋に…



なんだ？
これは…

…この紋を人間に
烙印する妖魔を
追ってるの

体色は嫌な感じの
深緑で…
かなり大柄の妖魔
なんだけど…

桐生家には何か
情報入ったり
してない…？



何か事情が
あるのか？

あっそう…
知らないなら
いいわ…

ううむ…
すまんが
心当たりは
ないな

私で良ければ
手伝うぞ？



あんたの助太刀
なんか要らないわ!

え...?

そ、そんなに
私に手助け
されるのが嫌か?

あの程度の
雑魚妖魔なんか
私ひとりで充分
だったの!

それに:
助けてもらって
ばかりじゃ...

ボン...

いつまでたっても
あんたに追い
つけないし...



追いつく?
私に...?

と、とにかくッ!

もう私に
気遣いは
無用よッ!

私もう
行くからッ!

それじゃ...



ま、また
怒らせて
しまったかな...?

む...

真利は私の何が
そんなに気に食わん
のだろう...うゝむ...



お...!
おい、真利...

あっ...

翌日…

あ、あの
お店だよ
桐生さん！

ネットで話題の
クレープ屋さん！

Charlie Crepe

Charlie Crepe

私イチゴと
生クリームにしよう！

一華ちゃんは
何にする？

そうだなあ…
ではチョコレート
バナナを…

すまない…急用を
思い出した！

む…!!

この感じ…
妖気！

この近くだ…
もしや誰かが
妖魔に…？

えッ!!

あっ…？
桐生さん!!



待っている
妖魔共め…!!

身衣装霊!!

あっちか…!?

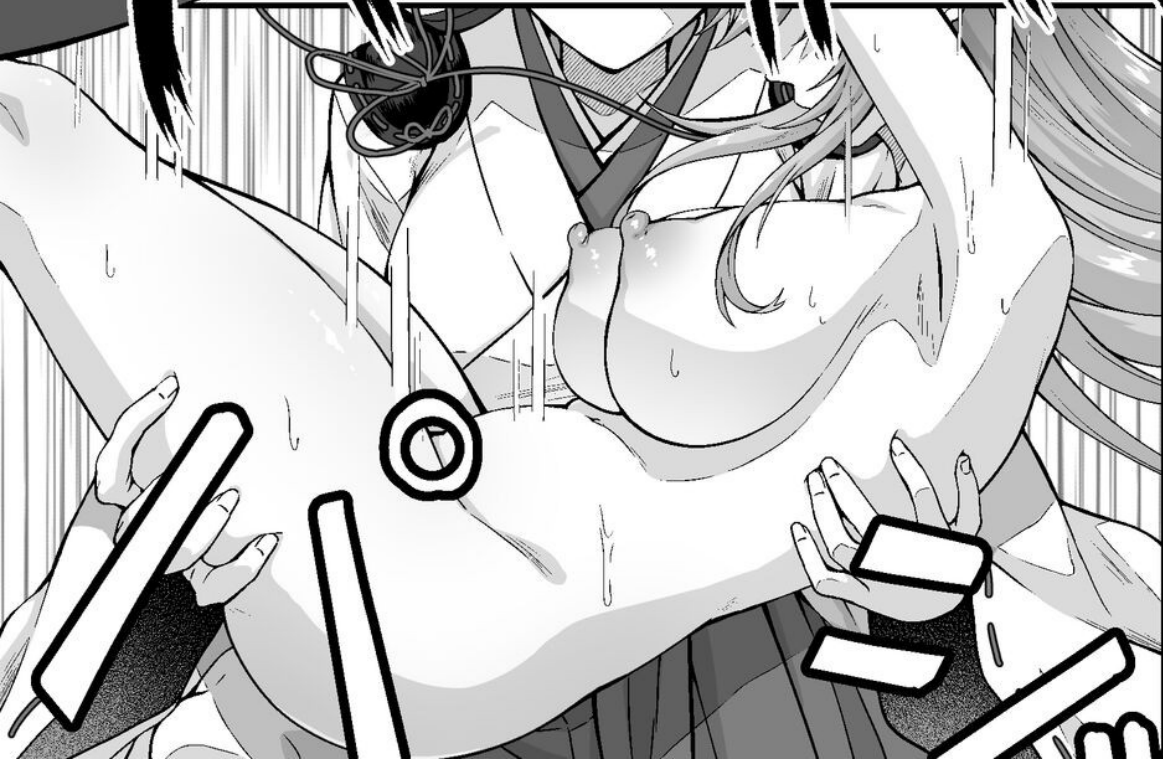
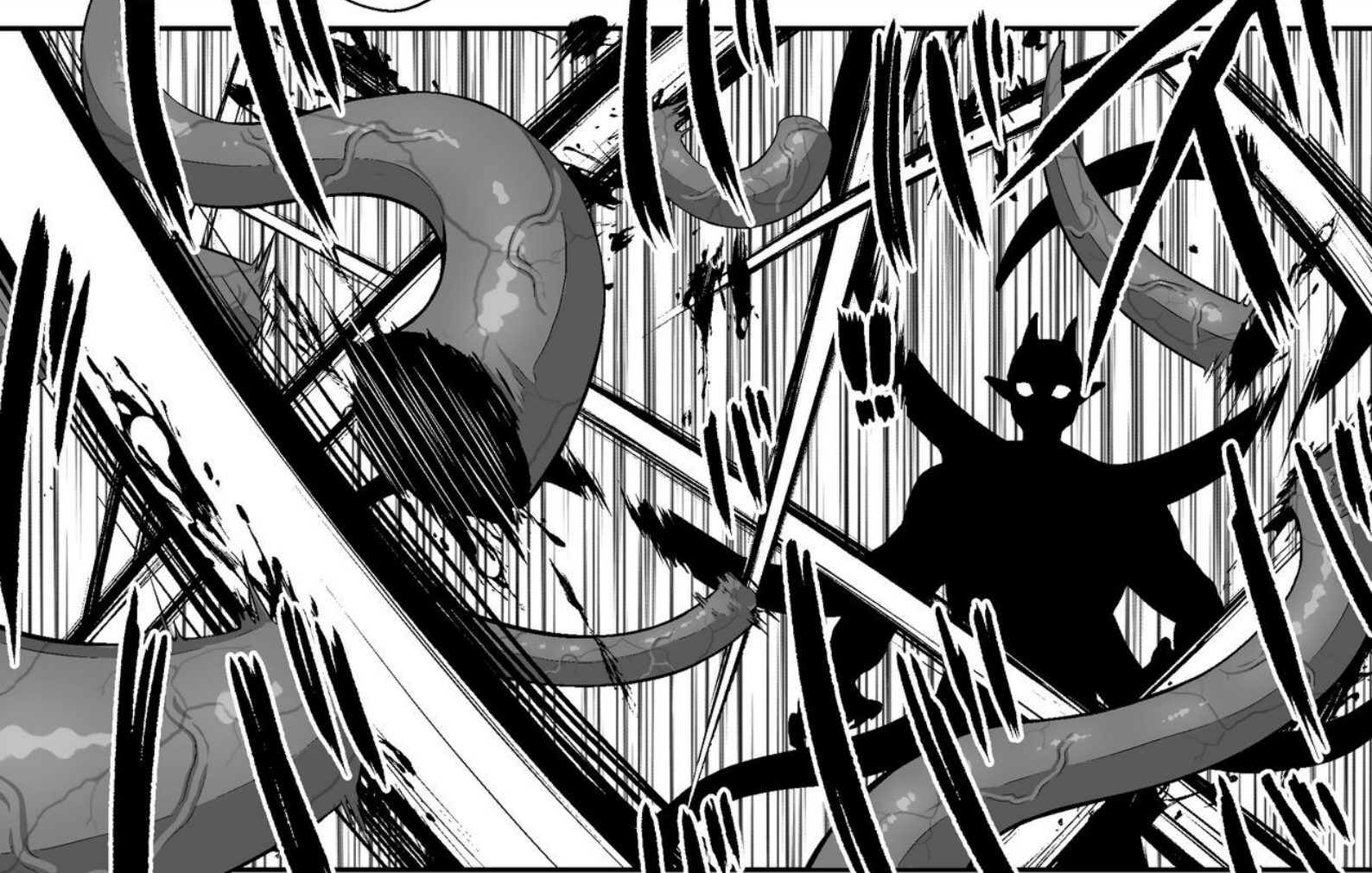
だが…!
逃しはせんぞツ!

む…!?
妖気が消えた?
気配を消したか…



影舞…ッ!!

秘劍…



妖魔め…!!

…そこまでだ

退魔師か…

もう大丈夫…

ちっ…面倒な相手に
見つかったな…

キョロ



…この紋を人間に
烙印する妖魔を
追ってるの

こ…
この紋は!?

緑色の巨軀…!!

こいつが真利の
言っていた妖魔!?





抑えているが
奥底に感じられる
この妖気…!!

こやつから感じる
霊力…!

……

かなりの
手練れ…!?



なかなか高い
霊力を持つている
ようだな…

先程の
動きといい…
並の退魔師
ではないな?

何者だ?



我が名は一華!

退魔師の一族
桐生家の十八代目
当主なり!



桐生…!?

あの四大退魔家の
一つの…!?

…なるほど
道理で

平和に暮らす
人々を踏みにじる
貴様ら妖魔を

許すわけには
いかん…!!

真利には悪いが…
今ここで滅させて
もらう!

どうやら見逃して
もらえるほど
甘い相手では
ないらしいな…

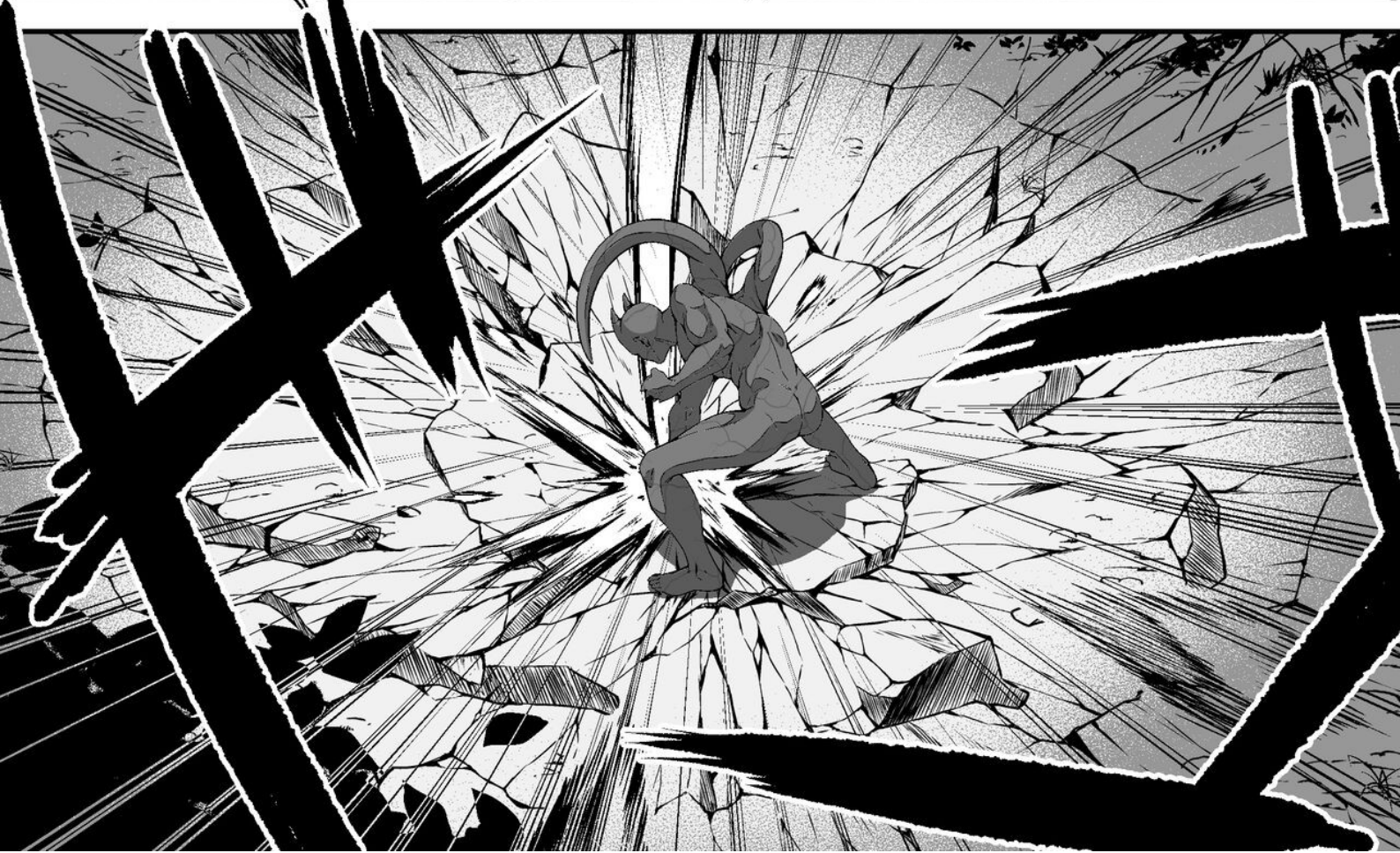
覚悟しろ!

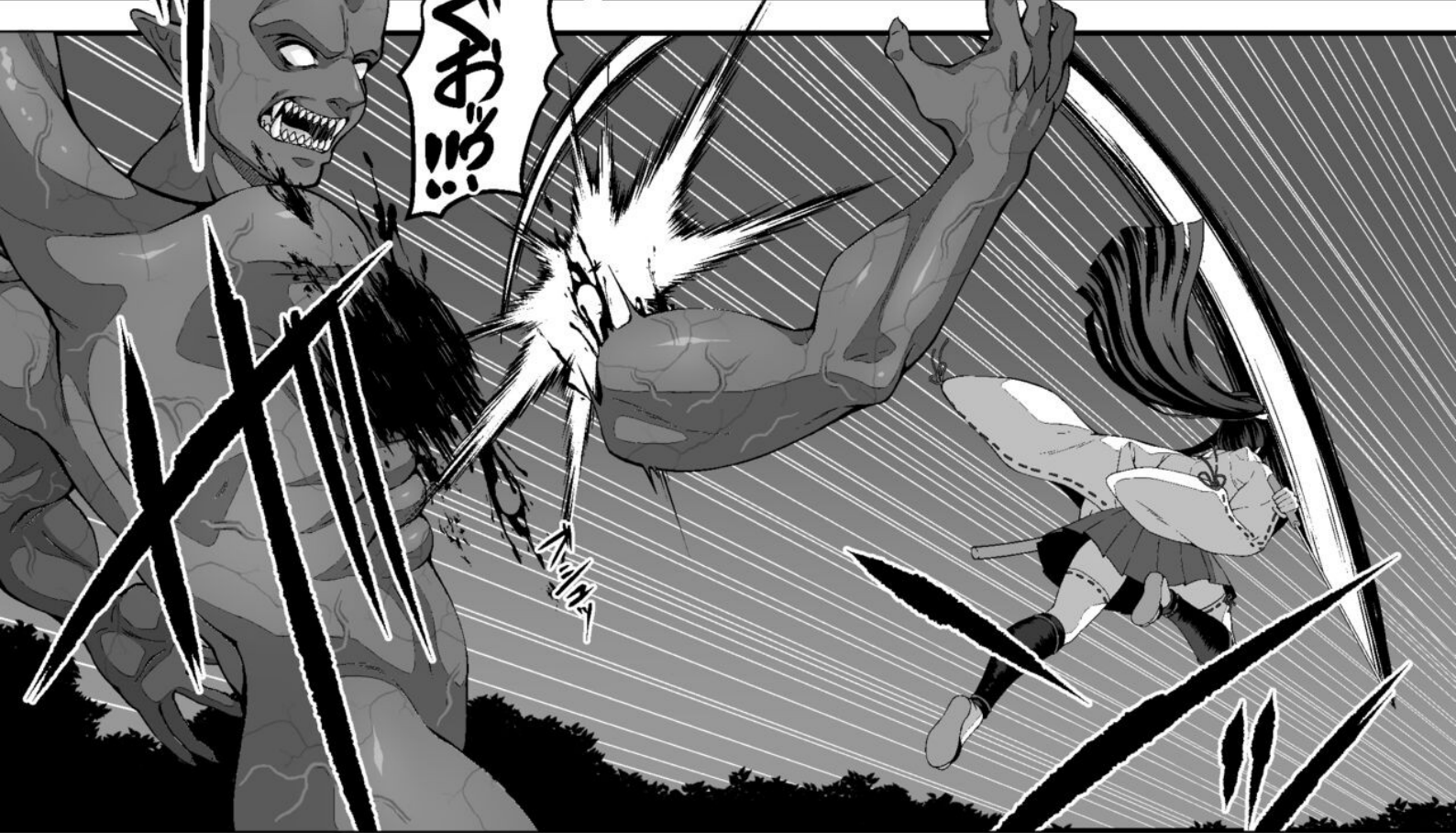
仕方あるまい
本気でいくぞ…!!





うんうんうん
うんうんうん
!!







ぐっ!?

な...!?
斬った!
腕が...!?



...ぐっ!?

し...しまった
...ッ!?

くく...
油断
したな?



人間ごときには
出来ぬ芸当だろう?!

では今度は
こちらの番だな

くつくつく…
なかなか
美味そうだ

ぐ…ッ!

アッル。

ここいつ…!
なんという
力だ…!?

身体がまるで
動かせない…!!

な…!?
そ…は…!!

これは期待
できるな…

アッル。



この屈辱…
必ず返して
やるぞ…ツ!!

く…!!
貴様…ツ!



な…!!



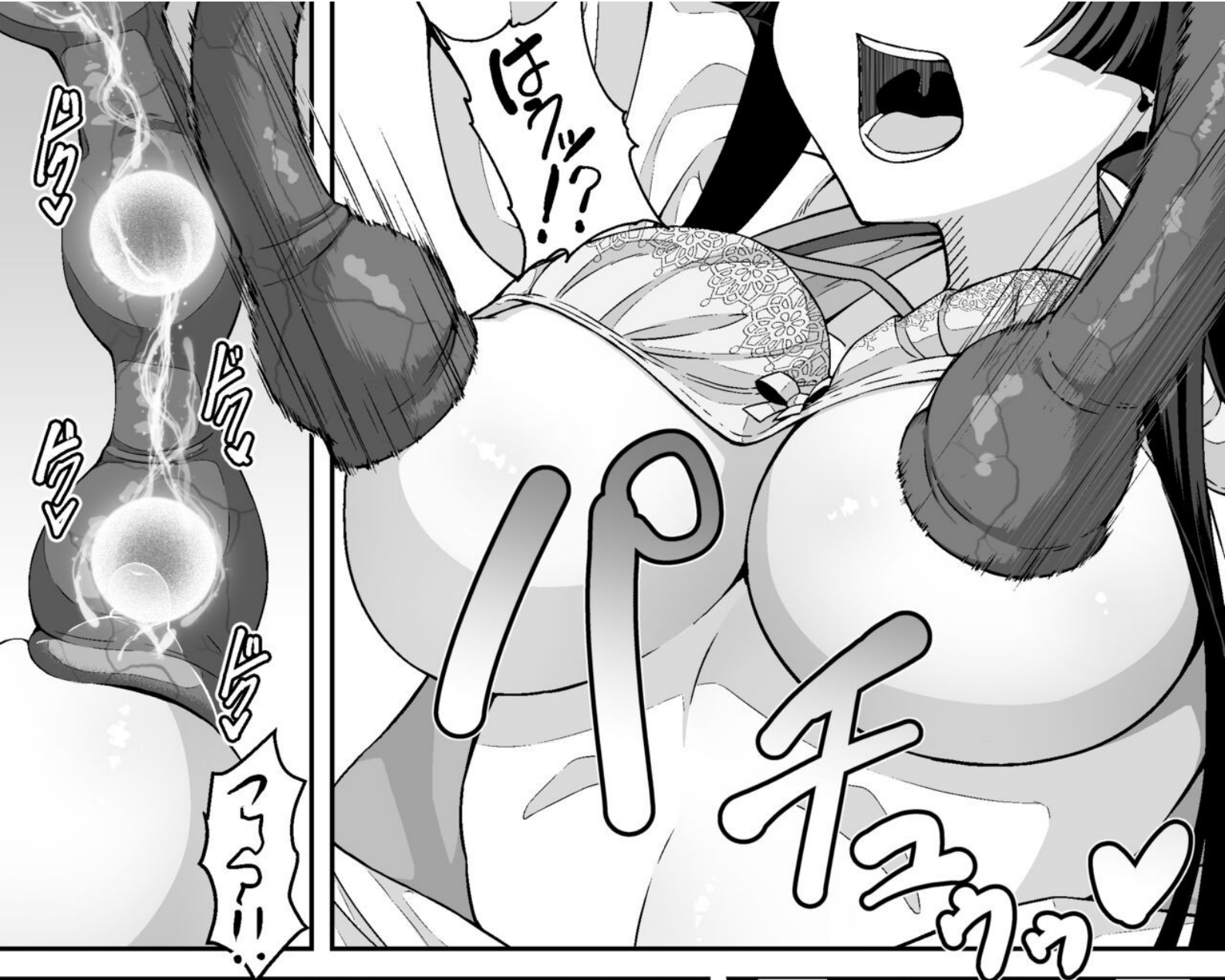
ほう、その鋭い
目がどこまで
保てるか…

見ものだな
くつくつく…

それでは…
あの桐生家の
当主の霊力とやら…



味合わせて
もらおうか…



はっ!?!

アッ
アッ



く...ツ!?
れ、靈力が
吸われ...

まさ...!

ほほう...!
これはこれは...

実に濃厚で
美味な靈力だ...!!

アッ...

キキ

アッ...



!?

ああ!!?

クッ

クッ
クッ
クッ
クッ

おっ
おっ

クッ

クッ

触るなッ……!

クッ

クッ

クッ

なッ!!
そこは……ッ!!

ぐ……!
やめろ……!

クッ
!!



五月蠅いな…
少し黙っている

むぐツ!?



ヌ…



く…う!?



ふっふっふ…
すぐに効果が
現れるぞ…

な、何か
飲まされ…!?

クク

クク

クク
クク



び…
媚薬か…!?

クク
クク



クク

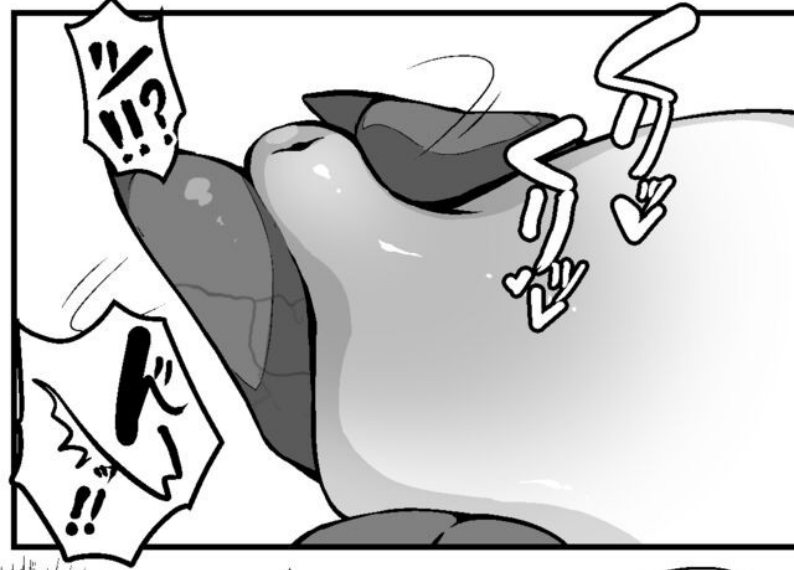
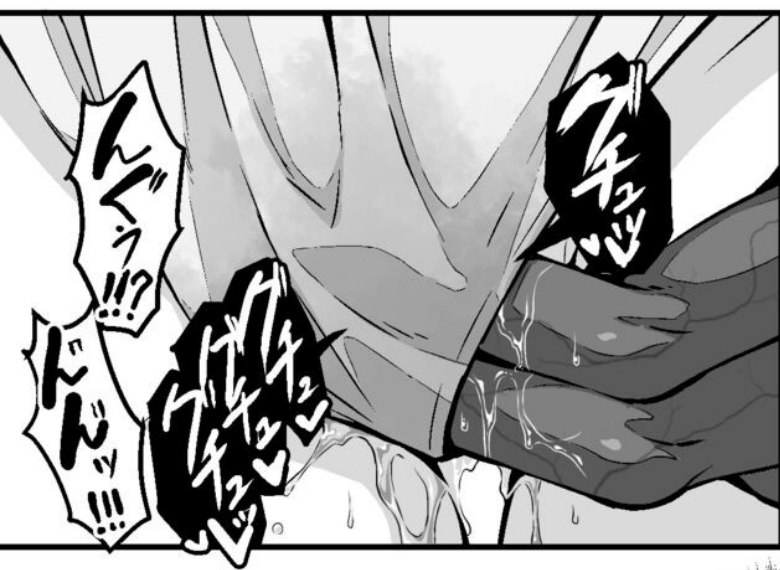


か、身体が…

焼ける様に
熱い…!?

クク!!?

クク
クク



反撃を...ッ!!

…集中しろ
快楽に惑わ
されるな!

まだ霊力が
残っている
今のうちに…

くくく…!!
益々溢れて
きているぞ?

く…!!
このままでは
まずい…!

何…ッ!!
貴様…!!



ゆ、油断
したな…!!





貴様が隙を見せるのをずっと窺っていたんだ...!!

ほほう...やるな

流石は桐生家の当主というべきか



さあ... 覚悟し...



ち、力も入らん...!?

な、なんだ...!?

下半身が急に熱く...!?





な、舐めるな!

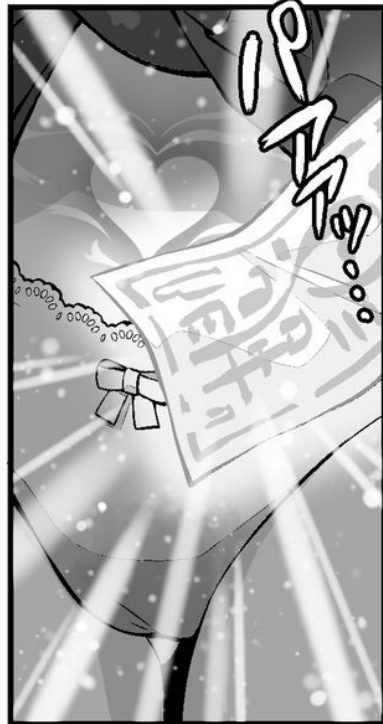


どうだ?
楽しみだろうか?
フハハハハ……!

これから少しずつ
その淫紋が
貴様の身体を
より淫らにして
くれるぞ……



!?



このような
妖術など……ッ!!



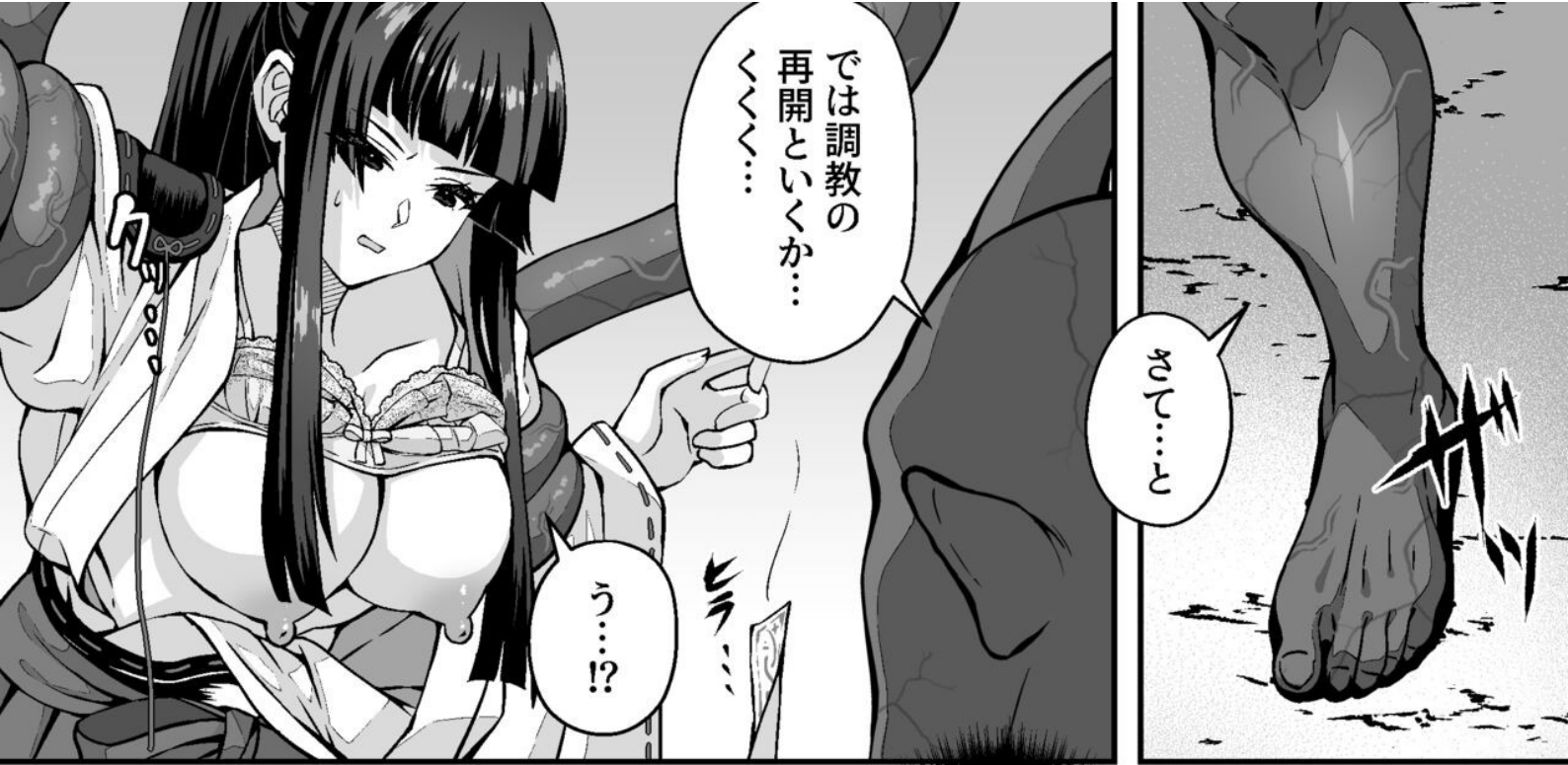
この妖術を
破ることなど
できぬわ……!!

私を滅するでも
しない限り……

くっくっく……
無駄だ



ち、治癒の霊札が
効かない……!?



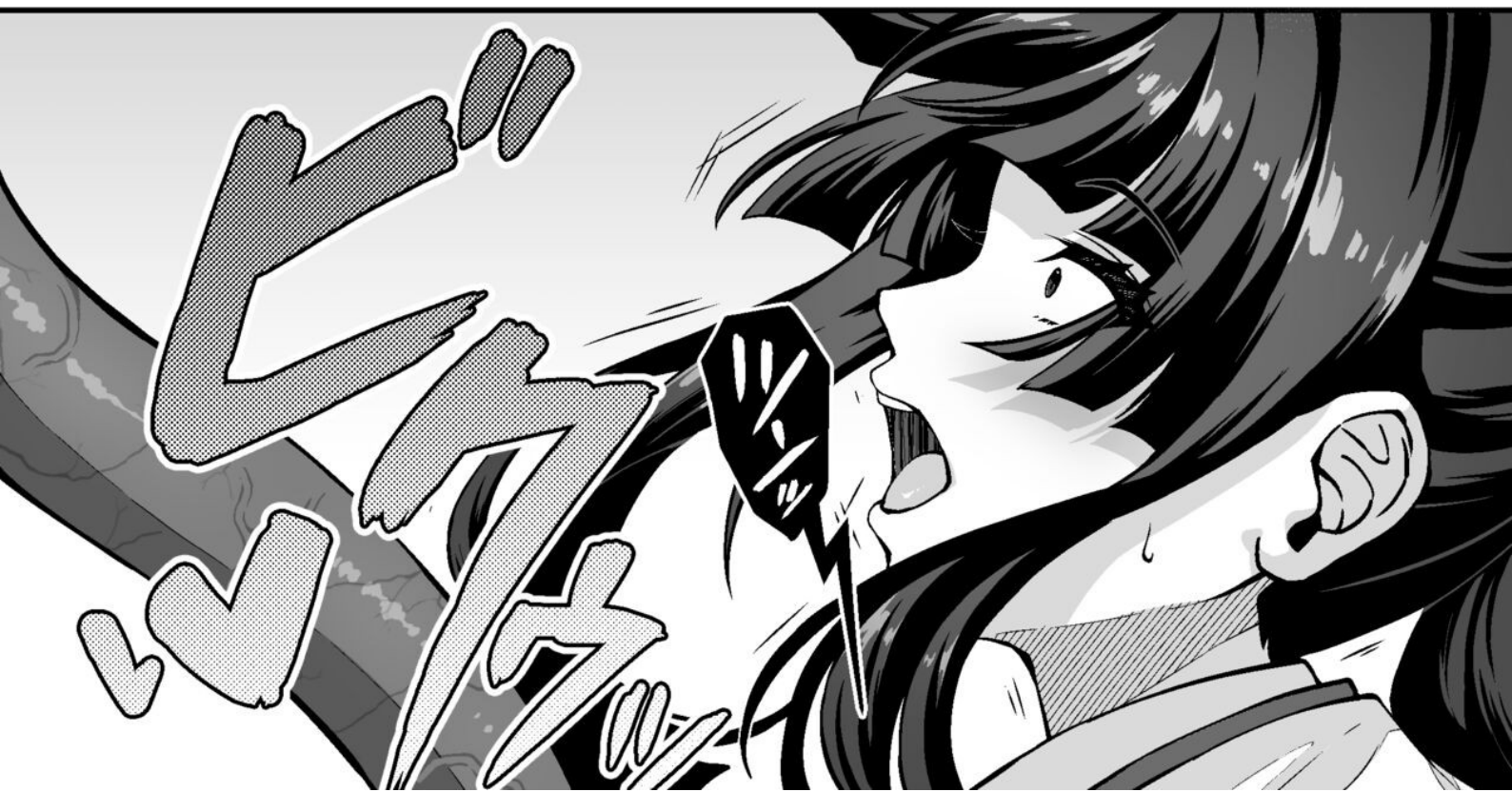
では調教の再開といくか...

う...!?

んっ...っ



...な、なんだ？
触手の先端に
妖気を...!?





くく…これは淫紋妖術の応用でな…

触れられた箇所
の感度を爆発的に
高める効果がある



き、貴様アツ!?

今…何を…
した…ツ!?



少し触れた
だけで…

つまり…



天にも昇る
快楽を
味わえる…

というわけだ

んんんん!!

んんん!!

んんん!!

んんん!!

んんん!!

んんん!!

んんん!!

んんん!!

んんん!!

んんん!!

んんん!!

では本番だ…

なっ…!?

極上の快楽を
味わうが良い…!

セー…!?

びんびん

は
あ
あ
あ





胸が…ッ!!
や…乳首が
熱いイイツ!?

はっおあッ



んおあッ
んおあッ
んおあッ

あッ
あッ
あッ



あッ
あッ
あッ

びんびん

フン…
もう果てたか

じわっ…



だがまだわずかに残っているようだな...



くつくつく...
斬妖刀を保てる
霊力も無くなったか...



ひん...
ひん...
ひん...



吸い尽くしてやるぞ...
くくく



ああああ

フク

ああああ

ああ!!

ゴク

ああああ

はひん

ああああ

だめだ
だめだ

力が
抜けて

霊が

ああ

ああ



くっくっく...
装霊具も
消失したか...

霊力を全て
失ったようだな

ククク...

これで貴様はもう只の人間と
なんら変わらぬ…

抵抗力を失った今…

その淫紋の真の力が発揮されるぞ…!!

な…
なん…だと…?

貴様が絶頂する度に
少しずつその淫紋が
意識と精神を改変
していく…

そして最終的に
貴様は従順な
牝奴隷として
生まれ変わるのだ

な…に…!?

さて、では貴様の
精神が消え
失せるまで…

快楽を与え
続けてやるぞ

桐生家の当主様の
具合は如何なる
ものかな…?

ア



ああん

ああん



ああん

ああん

流石は
四大退魔家の
当主よ…!!

私に敗れたのが
初の敗北だった
わけか…くく



…ほろっ

ああん

くっくくく…
そうか、まだ処女
だったか…!!

ああん

ふむ…中々
いい具合だな

くく…まだまだ
威勢があるな
では激しめに
してやろう…!!

すぐに壊れては
くれるなよ?

興奮めも
いいところ
だからなあ…!



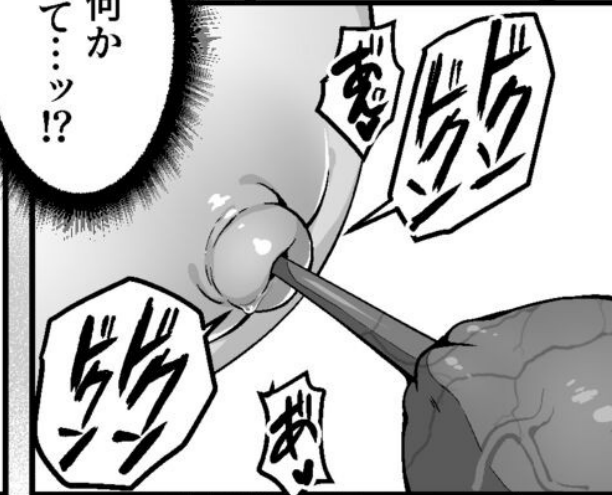


お次は
これを入れて
やろう...

アッ...

な、何か
入って...ツ!?

ここ、これは...!?
胸が...
張って...?



乳首が
熱く...!?

ズン...
ズン...
ズン...

先端が...

ズン...
ズン...
ズン...



や...
ほ、母乳が...
止まらな...!?

意識だけでなく
身体も作り替え
られていく感覚は

くっくくく...
どうだ?



どうだ？
そろそろ私に
服従を誓…

!?

こっ…この
程度…で…

む…ッ!?

私…を…屈服
させられると…

お、思う…な…!

き、桐生家の
退魔師を…
みくびるなよ…!!



……

なるほど…
これは失礼…

少々侮って
いたわ…

流石はあの
四大退魔師の
一族の長よ…



ならば…
今度は部下の
相手をして
もらおうか

な…に…?

貴様の精神が
何日持つか

見届けて
やろう…

フハハハハ
ハハハハ!!

フハハハハ

フハハハハ

フハハハハ



ヒビヒビ…
ようやく順番が
回ってきたぜ…

はあ…

ヒビヒビ

これで…
よしっ…と

はあ…

キキキ

ちっ…
わかってるって

おい、終わったら
早く変われ

ヒビヒビ



ちよ、調子に…
乗る…なよ…

この…下等
妖魔共が…ツ!!

けけ…まだまだ
元気じゃねえか

ヒビヒビ



マン〇の味は
どんなもんか…

なつとツ!!

ヒビヒビ…
さあて…桐生家の
当主様の

ヒビヒビ

ヒビヒビ

五日後…

フン…
これがあの名門
桐生家の当主か…

なんとまあ
無様なものよ

しかし…当然と
いえば当然か

いくら強い
退魔師といえど

あの方には
敵うまい…!!

又ハハハ
ハハッ!!

おほおほ

おめ…
おめろおめろ

木いん

おめろ





わ、私の霊力も…

体も心も…

す…全て…

貴方様に
捧げますウツ♡

だからお願い
しますウツ♡

私の
なかの
腔にイ…ツ♡

出してくだ
さいイツツ♡♡



はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

ごっ…ご先祖様
お許しを…ッ♡

私…桐生
一華はアツ♡

妖魔の牝奴隷に
なりましゅうッ♡

は、早くサツ♡
言ったから♡

なにか
脳内ニミン
出しんじゅ





ち○ぽお…♡

ち○ぽお♡

ち○ぽお♡

ち○ぽお♡
おいひ…んッ♡

随分と素直に
なってきたな…
くくく…

ち○ぽお♡
ち○ぽお♡
ち○ぽお♡
ち○ぽお♡
ち○ぽお♡



はい…♡
私はあ…貴方様の
ちんぽが欲しくて
堪らない…

卑しい牝奴隷で
ごちいますう♡

ち○ぽお♡

ち○ぽお♡

くく…ならば
そろそろ褒美を
くれてやろうか

上に乗れ
一華よ

…は♡

す♡



では…♡
失礼します…♡

はぁん…♡

くっ♡
ぱん♡
ん♡

あぁ♡
あぁ♡
あぁ♡
ん♡
ん♡
ん♡

あん♡
す♡
ご♡
い♡
…♡
です♡
う♡

くく…今日は
少し趣向を
変えるか…

身衣装霊して
腰を振るがいい
一華よ

…えっ？

それくらいの
霊力は回復
しているだろう？

わ…♡
わ♡
かり…♡
まし♡
た♡
アン♡

それ…♡
ん♡
ん♡
では…♡
ッ♡

ま…♡
参り…♡
ます♡
う♡

あ♡
ん♡
ん♡
ん♡

あ♡
ん♡
ん♡
ん♡

あ♡
ん♡
ん♡
ん♡

あ♡
ん♡
ん♡
ん♡

あ♡
ん♡
ん♡
ん♡



これで...
いい...ですか?

くく...よし
ご褒美だ



し...♡
身衣...♡

装霊♡



あ...!!

アツク...

何度味わっても
いいものだなあ...

挑んできた
退魔師共を
返り討ちにして...



あーっ

びしょ濡れ

びしょ濡れ

この私にかかれば
こうして奴隷と
なるしかあるまいて…

くっくくく…
四大退魔家の
当主とはいえど

所詮はひ弱な
人間…

フハハハハハ
ハハハハッ!!

END